

令和八年 卯月 783号

よつぎ

目次

今月のおまつり

みあれ芸術祭「うちゅうせん」

神宝館だより・みこころ

宗像大社歌会詠草

御造営奉賛者御芳名

7 7 6 5・4 3・2

よつぎ。日本国を象徴する花

として、皇室の御紋である「菊」と国民に最も親しまれている「桜」が国花とされている▼靖國神社には、約六〇〇本の桜が植えられており、東京に春の訪れを告げる「九段の桜」として観光名所となっている▼大東亜戦争末期、「桜花」と名付けられた特攻機があった。「死の桜」とも呼ばれ、散りゆく桜に擬えて、パイロットの一命が二度と帰らない事を意味した。「同期の桜」は、桜の花の散り際を惜しむ心情を自身と戦友の命に喩えた歌である。又、家族に宛てた遺書には、「護国の神として、桜の花も美しき九段の靖國で会いましょう」と遺した。桜は、靖國神社の象徴であり、日本人にとって、美しさと儚さを同時に憶える特別な花である▼先月、会員減少により宗像市遺族連合会が止む無く解散した。戦後八十年が過ぎ、戦争の惨禍と英霊顕彰を次世代へ伝える事が難しくなってきた。自分の命を犠牲にすることで、平和の春が来ると信じて戦火に散った若桜のご英霊たち。英霊顕彰とは、儚くも戦場で散華した命の尊さに思いを馳せ、今日の平和の礎を築かれたご英霊の声なき声に耳を傾ける事だと思う。(床)

今月のおまつり



辺津宮春季大祭

四月一日(水)午前十一時

一年に一度、虫干しを兼ねて当社所蔵の神宝や古文書を公開していた「保存会」に始まる祭り。五穀豊穣を祈念します。

昭和祭

四月二十九日(水・祝)午前十一時

昭和天皇が御誕生された四月二十九日(昭和の日)に、ご聖徳をお讃えし、皇室の弥栄と国の安寧を祈念します。

春まつりについて

春は生命の息吹が大地に満ちる季節である。厳しい冬を越え、草木が芽吹き、花が咲き、人々の心にも新たな希望が宿る。古来、日本人はこの自然の移ろいを神々の御働きとして感じ取り、春の訪れを寿ぎ、感謝と祈りを捧げてきた。それが春祭りの起源である。

春祭りは、五穀豊穣を祈る年初の大切な祭

礼である。田の神を迎え、その年の実りが豊かであるよう願うとともに、地域の安寧や人々の健康を祈念する。農耕と深く結びついてきた日本の暮らしにおいて、春は単なる季節の変わり目ではなく、新たな一年の始まりを意味していた。

例えば、各地で行われる御田植祭や祈年祭は、その象徴的な神事である。神前において今年の豊作を祈り、時に早乙女による田植えの所作が奉納される様は、自然と人と神とが一体となる日本独自の精神文化をよく表している。

また春祭りは、地域の人々が集い、絆を深める機会でもある。神輿や行列、奉納芸能などを通じて、世代を超えた交流が生まれ、共同体の結びつきが再確認される。祭りは単なる行事ではなく、人と人をつなぎ、地域の心を育む大切な営みなのである。

現代においては、農業との関わりが薄れつつある地域も少なくない。しかしながら、春



御下賜され、宗像大社で初めて舞われた風俗舞 昭和4年4月14日

祭りに込められた「自然への感謝」と「新たな

始まりへの祈り」は、時代を超えて私たちの心に響くものである。日々の忙しさの中で見過ごしがちな自然の恵みに思いを致し、改めて感謝の心を持つことが求められているのではなかろうか。

春の柔らかな光の中、神前に手を合わせるひとときは、私たちの心を静かに整え、新たな歩みへの力を与えてくれる。春祭りは、今もなお、日本人の精神の根底に息づく大切な文化なのである。

宗像大社主基地方風俗舞

当社では、春秋の大祭に際し、保存会の奉仕により「主基地方風俗舞」が奉納されている。この舞は宗像大社に古来より伝わるものではなく、天皇陛下の御代替わりに斎行される大嘗祭に由来する特別な国風舞である。

大嘗祭においては、全国を東西に分け、西を「主基地方」、東を「悠紀地方」と定め、それぞれに斎田が選ばれる。そして、その地に伝わる風俗歌を基に新たに作曲・作舞され、大嘗祭および大饗宴の場においてのみ披露される。これらの舞は門外不出を原則とし、儀式終了後は再び奏されることはなく、昭和以前の国

風舞はすべて失われている。

しかしながら、昭和三年、昭和天皇の御即位に伴う大礼に際し、福岡県早良郡脇山村（現・福岡市早良区脇山）が主基地方に選定された。村の産土神である横山神社において成就祈願祭が斎行され、同社が宗像大社の分社であった縁から、新穀献上の当日には関係者一同が宗像大社へ御礼詣で行ったのである。

この由縁を背景に、当時の県知事は主基地方勅定の栄誉を後世に伝えるべく、四月十四日を「主基地方勅定記念日」と定め、宗像大社を会場として奉祝行事が執り行われることとなった。そして本来、宮中においてのみ披露されるべき主基地方風俗舞が、特別に宗像三社の地に奉納されるという、極めて意義深い機会が実現したのである。

その後、舞は途絶えることなく受け継がれ、今日では春秋の大祭に欠かすことのできない奉納神事として、大切に継承されている。保存会の会員は、由緒ある舞楽の担い手として日々研鑽を重ね、その伝統を今に伝えているのである。

みあれ芸術祭「うちゅうせん」
JIAゴールドデンキキューブ賞
特別賞受賞



昨年の宗像みあれ芸術祭において境内に展示された竹のあそび場兼舞台「うちゅうせん」が、このたびJIAゴールドデンキキューブ賞二〇三―二〇二六特別賞(組織部門)を受賞した。

本賞は、子どもを対象とした建築・まちづくりの教育活動を評価し、その質の向上と発展を目的とするものである。建築作品そのものではなく、子どもたちが建築や環境をどのように体験し、何を学び、どのような力を育むかという点に重きが置かれている。

「うちゅうせん」は、鹿児島大学 細海研究室〔HOSLAB〕細海拓也氏を中心に、学生が主体となって構想・設計・施工に取り組み、地域の方々と協働しながら創り上げられた。特に、学生一人ひとりが現地に入り、竹の伐採・加工・組み立てに至るまで身体的に関わりながら空間を立ち上げていったプロセスは、教育的実践としても高く評価された。

また本取り組みは、鹿児島大学を中心とした実践が地域と結びつき、学びの場として結実した点に大きな意義があるとされている。

完成後は、みあれ芸術祭関連イベントの舞台として活用され、ダンスや音楽、ワークショップなど多様な表現が重なり合うことで、空間は人々の営みによって育まれていった。一つの構造物が、関わる人々によって「場」として息づいていく様子は、本芸術祭の価値を象徴するものとなった。



本芸術祭の特徴は、鑑賞にとどまらず、体験や参加を通じて作品と関わる点にある。境内や周辺空間に展開される作品は、触れ、歩き、対話しながら楽しむことができ、訪れる人それぞれが自由な関わり方を見いだしていく仕組みとなっている。また、大学や地域団体、企業との協働により、制作の過程そのものが共有されることも大きな魅力である。

今回の受賞は、芸術を通じて地域・教育・人々をつなぐ「宗像みあれ芸術祭」の取り組みの中で、鹿児島大学をはじめとする教育機関と地域が連携して築いてきた実践が、外部から高く評価されたものと受け止めている。当社としても、今後も本芸術祭の趣旨に添いながら、鎮守の杜という場を地域にひろくことで、多様な文化と学びが育まれる機会・場となることを期待したい。

第776回

宗像大社歌会詠草

■大西晶子選 ■毎月25日メ切(順不同)

スーパームーン雲寄せつけぬ清しさにひかりの澄めりむなかつたの空 佐々木和彦
 良く晴れた夜空に浮かぶ満月、それもスーパームーンと呼ばれる大きい月の美しさを丁寧
 に詠んだ一首。満月の光の清々しさにあらためて宗像の空が澄んでいることにも気が
 ついた作者だろう。

あなたにも旅の記憶があるでしょう穴道湖のあの半輪の月

山崎 公俊

上の句の呼びかけに読者は懐かしい気分になる。更に下の句の具体で想像する風景が抒情的だ。半輪の月は半月を意味するのだろうか、あなたとは誰だろうかなどと想像と余韻がひろがる。

不都合は聞こえぬ振りの母白寿諭す息子のため息深く

東 雅子

白寿は九十九歳。この歌から察すると実はしっかりしているお母様のような。息子とのやり取りにユーモアがある。漢字が並ぶので諭すはさすと仮名にして、結句は(深し)と終止形にしては。

ランタナも霜にやられてクタクタに陽を浴びながら春を待つ庭

本田エリナ

遅霜で傷んでしまったランタナが生命力は強く、枯れずにいる。作者はランタナに自分の現在を投影しているようだ。(遅霜に傷み萎れたランタナは陽を浴びながら庭に春まつ)としてみた。

男女共ひねくり回す空中でサーカス超えるスノーボードは

佐藤 守

冬季オリンピックでは確かにサーカス以上と言いたいスノーボードの技が見られた。二句に違和感があるので直してみた。(男女とも飛びつつ幾度も身をひねるスノーボードはサーカスを超え)。

命とはときに狙われときに喰いときに煽られときに縛られ

早川 祥三

命をいろいろな角度から見直した作者だ。しかし煽られ縛られは生命にはあまりあてはまらないので、このように並べるのならば別の角度から肯定的なはぐみや誕生などを入れてはいかが。

いつもよりおしゃべりな夫の横顔に焚き火のほのおがゆらゆら映る

堺 玲子

アウトドアでの一場面か、いつもよりリラックスし高揚した気分の夫が楽しそうに話す様子が詠まれている。横顔にうつる焚き火の光を捉えたのが良い。その場の光景と気分がよく出ている。

◆選者詠

はじめての眼科医院で受診まち国会中継を二時間半見る
 かすむ目に黄砂とぶ空見るあした行くことなからん楼蘭を恋ふ

第746回 俳句

インフルに待ちかねて降る棕の種子 早川 祥三

御造宮奉賛者御芳名

(令和八年二月) (順不同・敬称略)

10,000円	鹿島市	高木美和子	町田市	河原 和子	
5,000円	千代田区	高梨 実	福岡市	加藤 晋也	
	杉並区	長島 理美	杉並区	岡野 陽子	
	大阪市	瀧本 記代	山口市	阿部 夕子	
	横浜市	大澤 毅	3,000円	湖南市	仲谷 端人
	日野市	大久保紀子		上尾市	石倉 学
	宗像市	西牧 嵩洋	2,000円	大宰府市	古藤 純香
	吹田市	西田 正芳		北九州市	瀧中 博子
	新潟市	小舩内 強		瀬戸市	塚本 辰典
	鹿児島市	山本 将功		鹿児島市	竹之内優華
	菊池郡	在毛勢 操		北九州市	西室 英一
	四日市	桂山智恵美		横浜市	原崎 崇

5月まつりごよみ

1日	総社月次祭 引続き 高宮祭、第二宮第三宮祭 宗像護国神社祭 沖津宮春季大祭 (沖津宮遙拝所) 中津宮春季大祭 (中津宮)	午前11時 午前9時 午前11時
5日	浜宮祭 於：宗像市神湊 五月祭 於：宗像市江口	午前10時30分 浜宮 午前11時 五月宮
15日	総社月次祭 引続き 高宮祭、第二宮第三宮祭	午前11時

編集後記

寒さも徐々に和らぎ、ふと見れば土筆が顔をのぞかせ、春の訪れを感じる頃となった。三月は卒業や転勤など、多くの節目を迎える季節である。別れには寂しさが伴うが、それはまた新たな出会いの始まりでもある。日本人は古来より節目を大切にし、その都度、前に手を合わせて心を新たにしてきた。慌ただししい日々の中にあっても、ふと立ち止まり、自然に心に向け、心静かに過ごすひとときを持つてみてはいかがだろうか▼春は草木が芽吹き、万物が新たな命を宿す季節でもある。その姿は、私たちに再び歩み出す力と希望を静かに示しているように感じられる。日々の小さな変化に目を向け、その恵みに感謝しながら、穏やかな心で新年度を迎えたいものである。皆様の前途が明るく開け、日々が安寧で実り多きものとなることを心よりお祈り申し上げます。(鈴)